

東京都健康長寿医療センター研究所（東京都老人総合研究所）

Index

都市に暮らす在宅高齢者の認知機能	
.....	1~3
平成27年度理事長研究奨励費採択者の決定	3
研究室紹介	4
第7回所内研究討論会	5

第138回老年学・老年医学公開講座レポート	5
平成27年度科学研究費助成事業の採択状況	6~7
老年学・老年医学公開講座開催予定	8
.....	8
主なマスコミ報道／編集後記	8



第138回老年学・老年医学公開講座 (P.5)

都市に暮らす在宅高齢者の認知機能

自立促進と介護予防研究チーム 研究員 佐久間 尚子

はじめに

現在、65歳以上の高齢者の方の約4人に一人が認知症またはその予備軍とも言われています。身近な人、家族、自分自身が認知症になる可能性のある高齢社会。とりわけひとり暮らしや高齢者のみの世帯が増えている現代においては、高齢者の生活を支える仕組みが必要です。私たちの研究チームでは、東京都と共同で町田市の協力のもと、在宅で暮らす高齢者の実態を把握し、認知症の人とその家族を支援する取組の推進に向けた基礎資料を得るために、住民調査を実施しました（文献1）。今回は、この調査の中から高齢者の認知機能の結果についてご報告します。

認知機能と脳

認知機能は日々の暮らしを支える重要な機能です。“電話がかかってきたので用件を伝える”、“雨が降りそうなので洗濯物を取り込む”、“冷蔵庫に牛乳がいっぱいあるので今日は買わない”などは、ふだんの何

気ない行動です。しかし、これらの行動にはたくさん人の認知機能が関わっています。たとえば、“電話がかかってきた…”では、電話が鳴るのを聞いて（環境音認知）、受話器を取り（行為）、相手の話を耳で聴いて理解し（話者理解・言語理解）、応答します（言語生成）。これには、話の流れを覚えておく必要もありますし（記憶）、そのために注意を持続する必要もあります。同時にメモを取ったり（注意の分配と書字）、後で手帳に書き込んだりすることもあるでしょう（記憶と言語行為）。また、“雨が降りそう…”では、雲行きを目で見ただけでなく、風の匂いや空気の湿り気を肌で感じ取って、過去の経験や知識に照らして判断しているかもしれません。このように、環境を理解して適切に行動する機能を認知機能と呼びます。では、認知機能を生みだしているのは何でしょう。答えは、脳です。一例に、環境を理解する感覚（五感）の模式図を図1に示しました。認知機能は、脳の分業と協働によって営まれているのです。

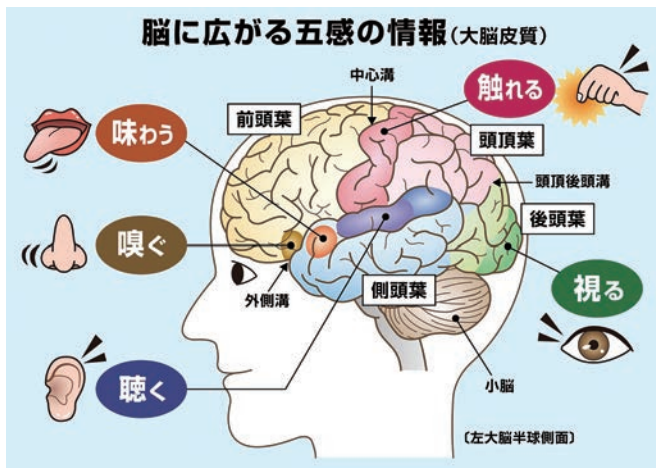


図1 脳に広がる認知機能:五感を例として

認知症は脳の病的変化

認知機能が失われると、自立した生活が維持しにくくなります。先の電話の例では、どこが障害されても電話の対応に支障が出るでしょう。認知症は脳の病的変化によって認知機能が障害され、これにより生活機能が障害された状態です。様々な原因疾患があり、次第に進行していきます。この認知症の診断には、ご本人やご家族への問診や医学的検査の他に、実際にご本人に課題を解いてもらう認知機能検査が行われることがあります。今回は、認知機能検査の1つであるMMSE (Mini-Mental State Examination) の日本語版を住民の方に受けていただいで調査することにしました。

都市の在宅高齢者

町田市内に住む65歳以上の方に協力をいただきました。最初に1次調査として、7,682名の方に郵送調査を行い、6,932名の方から回答をいただきました。次に2次調査として、3,000名の方を無作為に抽出し、連絡の取れた2,786名の方に訪問調査をお願いし、1,341名の方に承諾をいただいで家庭訪問を実施しました。調査項目は多岐にわたりますが、ここでは参加者の年齢と家族形態を紹介します。図2は、2次調査の参加者を3つの年齢階級と3つの家族形態に分類して人数を数え、全体に占める割合を表した図です。65-74歳は全体の約5割、75-84歳は約4割、85歳以上は1割弱の人数でした。家族形態は、全体の棒グラフでわかるように、

夫婦のみの世帯が最も多く、ひとり暮らしの高齢者と合わせて約6割の方が高齢者のみの世帯でした。

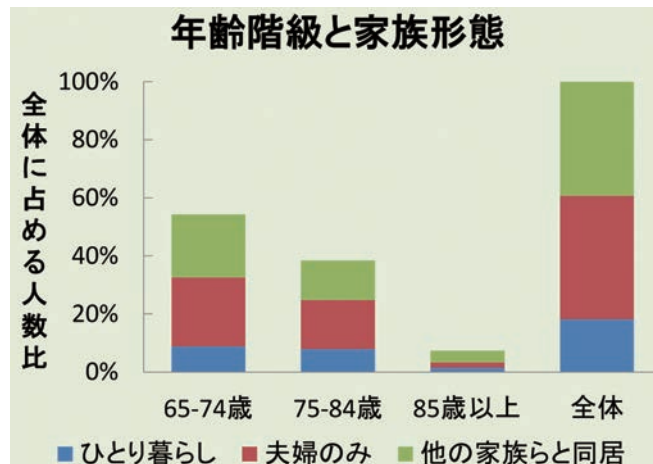


図2 年齢階級別に家族形態別の出現頻度を求め、全体に占める割合を積み重ねた図

都市の在宅高齢者の認知機能

今回は、MMSEの8割の得点を基準点として、基準点以上の方と基準点未満の方に分けて人数を比べてみました。図3は、性別、年齢階級別、教育年数別の割合を示しています。多くの方は基準点以上でしたが、全体の約1割の方が基準点未満で、認知機能の低下が疑われました。性別に見るとこの割合に差はありませんでしたが、年齢階級別に見ると年齢が上がるほど基準点未満が増え、教育年数別に見ると教育年数が少ないほど基準点未満が多くなりました。認知機能は加齢の影響を受ける一方、教育の影響も認められました。

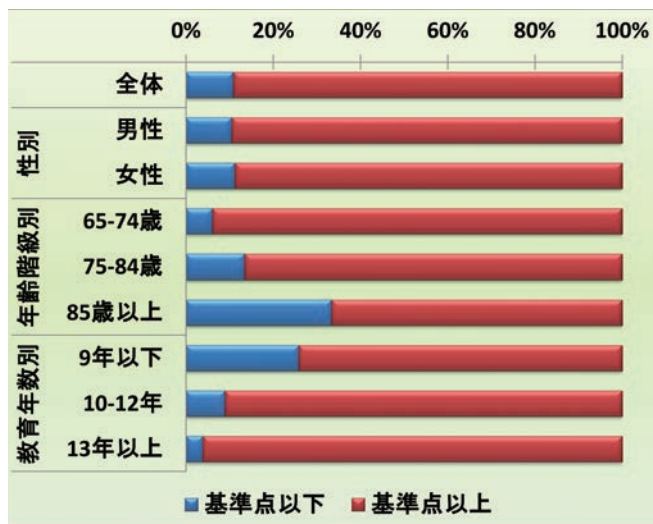


図3 MMSEから見た高齢者の認知機能

地域に暮らす高齢者の中には、認知機能が低下して生活支援の必要な方が含まれています。今回の調査では、これらの方は社会的に孤立し、医療や介護・福祉などの必要な支援に必ずしもつながっていない傾向があることもわかりました。高齢社会においては、認知症を理解し、認知症の人とともに相互に安心して暮らし続けられる方策が必要です。その一つとして、今回の調査では「自分でできる認知症の気

づきチェックリスト」を作成しました。このリストは、研究所のホームページでも紹介しています。こちらもどうぞご覧ください (http://www.tmghig.jp/J_TMIG/topics/topics_201409.html)。

文献

1. 東京都福祉保健局：認知機能や生活機能の低下が見られる地域在宅高齢者の実態調査報告書、平成 26 年 5 月

平成27年度 理事長研究奨励費 採択者の決定

区分	所属	氏名	研究課題名
グループ	老化機構研究チーム 老化バイオマーカー 【共同研究者】 社会参加と地域保健研究チーム 老化・虚弱の一次予防	藤田 泰典 【共同研究者】 谷口 優	地域在宅高齢者における血中 GDF15 濃度が将来の負の健康アウトカムに及ぼす影響
グループ	老年病態研究チーム 運動器医学	本橋 紀夫 【共同研究者】 森 秀一 高嶋 留美	骨格筋細胞における代謝変換誘導因子の探索
個人	神経画像研究チーム 脳機能	石橋 賢士	糖負荷とアルツハイマー型脳機能低下の関係
グループ	自立促進と介護予防研究チーム 筋骨格系の老化予防の促進	金 美芝 【共同研究者】 小島 成美 金 憲経	後期虚弱高齢者における客観的に測定した睡眠・覚醒パターンおよびその関連因子の探索－非虚弱高齢者との比較－



研究室紹介

老化制御研究チーム 生体環境応答

～研究紹介～

私たちの研究室は、ミトコンドリアをキーワードに健康長寿の新たな手段を求めて研究を進めています。ミトコンドリアは私たちが利用できるエネルギーを生み出す細胞内小器官ですが、活性酸素の発生源でもあります。

水素分子は酸化ストレスと炎症を効果的に抑制できる物質であり、水素分子が細胞に及ぼす影響といった基礎研究から、患者さんに水素水を摂取していただいて効果を確かめる臨床研究まで、一貫して取り組んでいます。また、コエンザイムQ10はミトコンドリアでのエネルギー産生に必須ですが、老化との関連はこれからの研究課題で、その解明を目指しています。

～メンバー紹介～

自らの老化を嘆いている大澤（テーマリーダー）に薔薇の研究にも余念がない高橋（眞）と入所2年目で断トツに若い池谷の常勤研究員3名、東洋大や北里大からの研究生、これに協力研究員などが加わり、時々とても賑やかになります。



左から 石垣、高橋（眞）、大城、大澤、池谷、畑、高橋（和）
※2015年4月撮影



2013年に水素医学シンポを主催



実験室でポーズ！

自立促進と介護予防研究チーム 筋骨格系の老化予防の促進

～研究紹介～

当研究室は、RCT（無作為化比較対照試験）介入研究に基づき、老年症候群の早期予防を目的とした介入プログラムを開発すること、および縦断データを用いた骨格筋系老化の関連要因の解明を目標としています。背景には、要介護状態になる原因として、虚弱、関節疾患、転倒骨折などの老年症候群の割合が高くなっているということがあります。具体的な研究成果として、サルコペニア（加齢性筋肉減少症）や虚弱に対しては、運動か栄養のいずれかの支援よりも「運動＋栄養」の複合的支援が有効であること、睡眠の質の低下は身体機能低下につながることで、下肢筋力が弱い方のADL（日常生活動作）障害が多いこと、下肢筋力の低下予防には大豆製品や野菜摂取が重要な要因であること等を解明しました。今後は、サルコペニア肥満、サルコペニア肥満糖尿病、睡眠障害、変形性膝関節症等の改善に有効な方法を探索するための研究を行います。

～構成メンバー紹介～

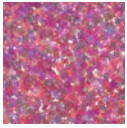
常勤研究員3名でしたが、平成27年5月1日付で藤野研究助手が加わり、現在は4名、非常勤研究員3名です。各人の研究テーマは、「金研究部長：RCT介入研究、小島研究員：変形性膝関節症の要因解明、金（美）研究員：睡眠障害解消、藤野研究助手：姿勢改善」であり、いずれのテーマも社会に大きく寄与するものと自負しております。



サルコペニア肥満改善教室の風景



左から金（美）、金（憲）、藤野、小島



第7回所内研究討論会

当番世話人： 社会参加と地域保健研究チーム 研究員 小林 江里香
 老化脳神経科学研究チーム 研究員 内田 さえ

5月15日（金）、研究所において、第7回所内研究討論会が開催されました。本研究討論会の目的は、研究員同士の交流と研究に対する自由な議論をすることにあります。本年度からは自然科学系と社会科学系が合同で行い、それぞれ一題ずつ発表することになりました。自然科学系と社会科学系の融合は本研究所の特徴でもあり、討論会では、約60名の参加のもと、分野の枠を超えた活発な議論が交わされました。

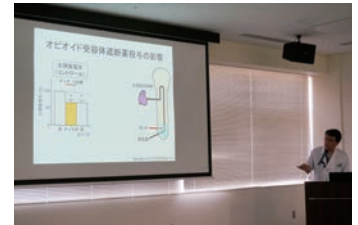
この研究討論会を重ねながら、研究所において分野を超えた新たな研究活動を発展させ、健康長寿の実現に向けた老年学研究を進展させていきたいと思えます。

以下に、今回の発表内容と発表者からのコメントを紹介します。

発表者 渡辺 信博 研究員（老化脳神経科学研究チーム 自律神経機能）

「タッチによる疼痛緩和効果の作用機序」

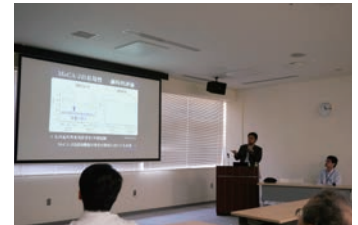
「タッチによる疼痛緩和効果の作用機序」と題し、侵害（痛み）刺激により誘発される自律神経反応を指標に、タッチの効果とその作用機序について検討した結果を発表しました。朝10時という開始時間に関わらず、たくさんの方々に聞いていただきました。さらに、発表後にはたくさんのご質問・ご意見を頂くことができ、大変にありがたく感じました。異なった目線からのご意見にハッとさせられることもあり、異分野交流ならではの醍醐味を感じることが出来ました。



発表者 鈴木 宏幸 研究員（社会参加と地域保健研究チーム 社会参加・社会貢献）

「認知機能低下の早期発見と社会活動による低下抑制の可能性」

軽度認知障害（MCI）を早期に発見し、低下を抑制する適切な取り組みを行うことで、認知機能は維持・向上する余地があります。研究討論会では、MCIスクリーニング検査MoCA-Jの有効性について発表しました。また、認知機能の低下抑制を目指した社会参加・社会貢献型介入プログラムとして絵本の読み聞かせを題材とした介入研究も取り上げました。少子高齢化の進展が止まらないわが国においては、社会貢献性を持つような活動による健康寿命延伸の取り組みは重要なアプローチといえます。討論では自然科学系・社会科学系を問わず多くの先生と活発な議論を交わすことができ、大変有意義な時間となりました。



第138回老年学・老年医学公開講座レポート

～ヒトの老化に挑戦する再生医学～

総務課 広報普及係 吉田 理沙

5月29日（金）、練馬文化センター大ホールにて、練馬区の後援により第138回老年学・老年医学公開講座「ヒトの老化に挑戦する再生医学」を開催しました。

老年病態研究チームの豊田雅士研究副部長による「鍵を握る幹細胞の役割」では、体内に存在する組織幹細胞の仕組みから、近年注目を集める幹細胞移植の課題まで詳しく解説されました。心臓外科の西村隆部長による「あのときめきをもう一度：人工心臓のお話」では、写真や映像を用い、実際の症例をまじえて急速に進化している人工心臓が紹介されました。そして、国立成育医療研究センター研究所から阿久津英憲先生をお迎えし、「誕生から老化を探る」と題して、生殖細胞ができる過程や個体の加齢とともに卵子に起こる変化についてご講演をいただきました。

質疑応答でも、幹細胞治療でへその緒が活用される可能性、人工心臓のメンテナンスなど多彩な質問をいただき、活気のある公開講座となりました。



平成27年度 科学研究費助成事業(科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金)の採択状況 (学術研究助成基金助成金の継続課題を含む)

平成 27 年 5 月現在

研究種目	新規	氏名	所属研究チーム	研究課題	交付決定額 (円)	
					直接経費	間接経費
新学術領域研究 - 研究領域提案型	2 件	萬谷 博	老化機構	脳発生過程におけるOーマンノース型糖鎖の機能解析	3,600,000	1,080,000
		遠藤 昌吾	老化脳神経科学	活性酸素種が担うマウス運動記憶の分散効果	3,600,000	1,080,000
基盤研究 (A)	1 件	田中 雅嗣	老化制御	世界および日本の瞬発系・持久系選手の運動能力に関連する機能的多型の解明	9,400,000	2,820,000
基盤研究 (B)	10 件	☆ 遠藤 昌吾	老化脳神経科学	抗酸化物質が運動記憶へ及ぼす影響の解析とその分子機構の解明	3,900,000	1,170,000
		☆ 石神 昭人	老化制御	ビタミンC、Eの同時不足が記憶、学習行動、脂質代謝、老化、加齢疾患に及ぼす影響	4,900,000	1,470,000
		石渡 喜一	神経画像	代謝型グルタミン酸受容体1型の分子イメージング：ファーストインヒューマン研究	2,300,000	690,000
		野中 久美子	社会参加と地域保健	世代間交流が高齢者の健康へ及ぼす影響および機序の解明	3,100,000	930,000
		遠藤 玉夫	副所長 (自然科学系)	糖鎖による脳神経機能調節の分子基盤の解明とその破綻による疾患	3,500,000	1,050,000
		藤原 佳典	社会参加と地域保健	高齢者の孤立の健康アウトカムへの影響および地域包括ケアによる予防策の検証	4,200,000	1,260,000
		豊原 潤	神経画像	実用化を目指した有望な DNA 合成画像診断薬 4DST の 18F 化とその臨床応用	1,700,000	510,000
		西村 隆	老年病態 (協力研究員)	心拍同期制御を用いた補助人工心臓による広範囲心筋梗塞に対する新しい治療法の確立	2,700,000	810,000
		金 憲経	自立促進と介護予防	サルコペニック・オベシティ早期予防を目的とした総合的支援システム構築と効果検証	4,100,000	1,230,000
		村山 陽	社会参加と地域保健	世代間援助の円環モデルに基づく多世代共生型事業の開発	1,400,000	420,000
基盤研究 (B) 特設	2 件	新開 省二	社会参加と地域保健	高齢期の生活機能および心身機能の加齢変化パターンの類型化と社会保障ニーズ	3,900,000	1,170,000
		藤原 佳典	社会参加と地域保健	高齢者就業の新たな調整型支援システムの構築に関する総合的研究	4,500,000	1,350,000
基盤研究 (C)	26 件	☆ 周 赫英	老年病態	神経筋シナプス活動を反映する血中新規バイオマーカーを用いた身体活動性の予後評価	1,100,000	330,000
		☆ 増井 幸恵	福祉と生活ケア	高齢期のライフイベントへの心理的適応過程—老年的超越の役割の縦断的検討—	700,000	210,000
		☆ 内田 さえ	老化脳神経科学	嗅球コリン作動性神経系機能の発達・成長・老化	1,300,000	390,000
		☆ 石川 直	老年病理学	テロメア長を調節する分子機構の解明：iPS 化のリプログラム現象を解析に活用して	1,600,000	480,000
		☆ 石崎 達郎	福祉と生活ケア	高齢者の慢性疾患併存パターンの実態把握と疾病管理法の研究開発	1,400,000	420,000
		☆ 下地 啓五	神経画像 (協力研究員)	複雑ネットワーク解析による認知症初期像の検討	2,000,000	600,000
		☆ 坂田 宗之	神経画像	脳 FDG-PET および MRI と機械学習を用いた高精度な認知症自動鑑別診断	1,400,000	420,000
		☆ 宮崎 剛	老年病態 (協力研究員)	骨メカニカルストレス応答における骨細胞—破骨細胞の細胞間制御メカニズムの解明	1,500,000	450,000
		☆ 本庄 恵	社会参加と地域保健 (協力研究員)	高齢者緑内障の視野：認知低下の関連の分析と診断・進行の客観的判定法の開発	1,300,000	390,000
		☆ 稲垣 宏樹	自立促進と介護予防	他者評価法による認知症高齢者の精神的健康度の評価	1,200,000	360,000
		太田 美緒	福祉と生活ケア	介護選択の決定要因	300,000	90,000
		新井 富生	老年病理学	高齢者胃癌の組織学的多様性に対応する遺伝子変化の関連解析	900,000	270,000
		仲村 賢一	老年病理学	ヒト表皮のテロメア長と日光老化・癌の発生	1,200,000	360,000
		松田 陽子	老年病理学 (協力研究員)	肺癌における Nestin のリン酸化制御による抗腫瘍効果の検討	1,100,000	330,000
		時村 文秋	老年病態 (協力研究員)	骨細胞におけるミトコンドリア転写因子 Tfam の機能解析	1,200,000	360,000
		平野 浩彦	自立促進と介護予防	変性疾患を原因とした認知症の摂食・嚥下障害の評価および対応法に関する調査研究	1,600,000	480,000
		佐久間 尚子	自立促進と介護予防	高齢者の認知機能に与える絵本の読み聞かせ活動と加齢変化：10 年目の追跡	1,300,000	390,000
		藤田 泰典	老化機構	インスリン抵抗性の指標となる新規血中バイオマーカーの探索	1,300,000	390,000
		菊地 和則	福祉と生活ケア	要介護施設従事者等による高齢者虐待への市町村・都道府県の対応に関する追跡研究	1,700,000	510,000
		萬谷 博	老化機構	APP 代謝における糖鎖機能の解析	1,400,000	420,000
泉山 七生貴	老年病理学	膀胱乳頭状尿路上皮腫瘍の組織学的悪性度の進行の原動力は何か	1,300,000	390,000		
相田 順子	老年病理学	バレット食道のテロメア長測定：日米欧のバレット食道の定義統一のために	1,300,000	390,000		

研究種目	新規	氏名	所属研究チーム	研究課題	交付決定額 (円)	
					直接経費	間接経費
		加賀美 弥生	老化制御	アルツハイマー型認知症の発症や神経細胞傷害に及ぼす蛋白質シトルリン化の病理解析	500,000	150,000
		森 寛子	福祉と生活ケア	脳血管疾患による在宅胃ろう造設者への摂食・嚥下機能向上支援に関する要因の解明	800,000	240,000
		杉原 毅彦	福祉と生活ケア (協力研究員)	全エクソンシーケンスと血中 PAD4 測定による関節リウマチの新規バイオマーカー探索	1,100,000	330,000
		本田 修二	老化制御	宇宙環境において発動する老化制御遺伝子ネットワークの解明	1,300,000	390,000
挑戦的萌芽研究	12件	☆ 倉岡 正高	社会参加と地域保健	囲碁を用いた世代間交流プログラムの開発とその効果の検証	2,800,000	840,000
		☆ 鈴木 宏幸	社会参加と地域保健	地域高齢者における筆記を用いた抑うつ早期予防手法の開発と効果検証	2,600,000	780,000
		☆ 伊藤 雅史	老化機構	認知症における脳内エクソソームの役割の解明	1,500,000	450,000
		☆ 大澤 郁朗	老化制御	老化過程におけるミトコンドリア・クリステ構造のリアルタイムイメージング	1,000,000	300,000
		☆ 石神 昭人	老化制御	シトルリン化蛋白質を指標としたアルツハイマー病早期臨床検査試薬の開発	1,000,000	300,000
		☆ 藤原 佳典	社会参加と地域保健	手指巧緻性と認知機能の関連性に関わる神経基盤の解明	2,900,000	870,000
		小林 江里香	社会参加と地域保健	高齢者の若年世代への態度と支援に関する研究	500,000	150,000
		豊田 雅士	老年病態	「臓器の老化」により変化する幹細胞分泌因子の探索と組織再生機序の解明	1,200,000	360,000
		伊東 美緒	福祉と生活ケア	認知症の人と介護する配偶者を対象としたライフストーリープロジェクト	1,000,000	300,000
		栗田 圭一	自立促進と介護予防	離島における認知症支援体制構築マニュアルの開発	900,000	270,000
		新開 省二	社会参加と地域保健	ミトコンドリア機能異常は高齢期の重要な負の健康アウトカムに関与するか	1,200,000	360,000
		田中 雅嗣	老化制御	慢性甲状腺炎に伴う自己免疫性橋本脳症の背景遺伝子多型の網羅的解析	1,100,000	330,000
若手研究 (A)	1件	☆ 本橋 紀夫	老年病態	骨格筋細胞における代謝変換誘導因子の探索	6,300,000	1,890,000
若手研究 (B)	16件	☆ 谷口 優	社会参加と地域保健	高齢者における身体機能の加齢変化パターンの類型化及び早期身体機能低下の要因の解明	1,100,000	330,000
		☆ 石橋 賢士	神経画像	新規 mGluR1 リガンド ITMM の脊髄小脳変性症における診断薬としての有用性	1,200,000	360,000
		柳井 修一	老化脳神経科学	抗認知症薬併用療法の行動学的基礎研究	500,000	150,000
		仙石 鎌平	老年病理学 (協力研究員)	パーキンソン病の早期診断にむけて—嗅球体積評価—	700,000	210,000
		中里 和宏	福祉と生活ケア	在宅療養支援機関におけるグリーフケアの促進に関する研究	800,000	240,000
		森 秀一	老年病態	疾患動物モデルを用いた抗 MuSK 抗体陽性重症筋無力症の治療薬探索と病態機序の解明	800,000	240,000
		青木 彩	老年病理学 (協力研究員)	鳩山町研究における加齢黄斑変性の有病率及び栄養疫学調査	210,000	63,000
		枝広 あや子	自立促進と介護予防	地域在住認知症高齢者への効果的な食事ケア介入の提案	1,200,000	360,000
		渡辺 信博	老化脳神経科学	深部痛覚に対するタッチの効果とその神経性機序	1,100,000	330,000
		金 美芝	自立促進と介護予防	地域在住後期高齢者における虚弱化予防に向けた睡眠と身体活動パターンの解明	1,000,000	300,000
		平山 亮	福祉と生活ケア	支援ニーズをめぐって息子介護者と支援者の認識が一致/乖離する条件の探索	1,300,000	390,000
		川上 恭司郎	老化機構	神経炎症におけるエクソソームの役割と作用機序の解明	1,200,000	360,000
		涌井 智子	福祉と生活ケア	家族介護力の将来予測と介護における地域役割の明確化	1,200,000	360,000
		西 真理子	社会参加と地域保健	居住地域に対する高齢者の「コミュニティ感覚」の向上を目指す地域介入研究	300,000	90,000
		山田 健之	老化機構	先天性筋ジストロフィー症の脳形成異常における糖鎖機能の解析	1,500,000	450,000
坂田 礼	老年病理学 (協力研究員)	正常眼圧緑内障—進行因子の解明および自然経過—	700,000	210,000		
研究活動スタート支援	1件	天野 晶子	老化制御	細胞外へのアスコルビン酸排出を担う輸送体の同定	500,000	150,000
特別研究員奨励費	1件	平山 亮	福祉と生活ケア	息子介護者のサポートネットワーク構築に関わる心理社会的条件の検討	700,000	210,000

※ ☆: 新規採択者

	直接経費	間接経費
計 72 件	128,610,000	38,583,000

講演：第139回老年学・老年医学公開講座

「紹介します！高齢者にやさしい最新医療」

日時：平成27年9月11日(金) 13:15から16:15まで

場所：板橋区立文化会館大ホール(1,200名)

東京都板橋区大山東町51-1

最寄り駅 東武東上線 大山駅北口・南口 徒歩約3分

都営三田線 板橋区役所前駅A3出口 徒歩約7分

事前申込不要
入場無料
入退場自由

老年学・老年医学公開講座 年間の開催予定

第140回	平成27年11月2日(月)	北とぴあさくらホール(定員1,300名)
第141回	平成28年1月19日(火)	文京シビックホール大ホール(定員1,800名)

主なマスコミ報道

H27.3 ~ H27.5

副所長

高橋 龍太郎

- 「断熱リフォーム、血圧上昇を抑制し高齢者の健康に好影響」(不動産流通研究所「最新不動産ニュース」H27.3.5)
- 「けさのクローズアップ 住宅エコポイント」(ABC朝日放送「おはよう朝日です」H27.3.9)

老化脳神経科学研究チーム

研究副部長 堀田 晴美

- 「無意識下で慢性痛を抑制、マイクロコーンによるタッチ」(メディカルトリビューン「Medical Tribune」H27.4.2)

社会参加と地域保健研究チーム

研究部長 新開 省二

- 「虚弱予防 社会参加がカギ」(朝日新聞社「朝日新聞」H27.4.7)
- 「献立工夫で筋骨強く」(読売新聞社「読売新聞」H27.4.20)
- 「健康長寿には、低栄養を避け、社会参加を」(芳林社「Better Care」第67号 2015年春号 H27.4.30)

社会参加と地域保健研究チーム

専門副部長 青柳 幸利

- 「“運動”しないのに病気に効く『新しい健康法』」(マキノ出版「安心」2015年4月号 H27.3.2より連載)
- 「病気予防と美肌に効く“適度な運動”ってどのくらい？」(中央公論新社「婦人公論」2015年4月14日号 H27.3.24)

- 「病気の9割は運動が原因だった!？」(KKベストセラーズ「一個人」5月号 H27.3.26)
- 「『歩きの手』とは何か」(横浜市「季刊誌 横濱」No.48 2015年春号 H27.4.3)
- 「1日8,000歩のうち20分の速歩を」(寿出版「月刊ことぶき」5月号 H27.5.1)

自立促進と介護予防研究チーム

研究部長 栗田 圭一

- 「認知症を語る 理解広がれば孤立防げる」(読売新聞社「読売新聞」H27.4.26)
- 「認知症の時代」、「認知症とは何か」、「治療最前線」、「高齢者の心の病気」(日本放送協会「マイあさラジオ」H27.4.27より5回)
- 「認知症研究：予防・ケアで生活の質保つ」(日本経済新聞社「日本経済新聞」H27.5.5)

福祉と生活ケア研究チーム

研究副部長 大淵 修一

- 「強く育てる骨エクササイズ」(中央公論新社「婦人公論」平成27年3月24日号 H27.3.10)
- 「高齢患者の通院付き添いを困難と感じる人は48%」(日本経済新聞社「日本経済新聞」H27.4.15)

編集 後記

近年、異分野融合や異分野連携といった言葉を良く耳にします。異なる分野の研究者・技術者などが、分野の垣根を越えて共通の課題に取り組み、大きな成果を挙げることを目的としています。当研究所では、昨年度、自然科学系の研究員が互いの研究内容について討論する「所内研究討論会」がスタートし、本年度からは、自然科学系と社会科学系の研究員が合同で実施することになりました。この会が、他分野に接する機会となり、互いの研究の理解を深め、異分野連携のきっかけになることを期待しています。また、このような異分野連携は、それぞれの分野での研究成果が基盤になるため、専門分野でのより一層の研究の進展が重要だと感じています。(蔵)



平成27年7月発行

編集・発行：地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 東京都健康長寿医療センター研究所（東京都老人総合研究所）編集委員会
〒173-0015 板橋区栄町35-2 Tel. 03-3964-3241 FAX.03-3579-4776

印刷：コロニー印刷

ホームページアドレス：http://www.tmghig.jp/J_TMIG/J_index.html

無断複写・転載を禁ずる